

山佐交流センターだより

2020年（令和2年） 8月発行号

発行日 令和2年 8月20日

発行 山佐交流センター TEL(FAX) 35-0129

7月末の上山佐人口＝350人（対前月比：△2人、対前年同月比△21人）

上山佐をみんなで
元気にしていこう！
新型コロナに
気をつけてね！



上山佐のイメージキャラクター
「てんばこん」

山佐ダム水力発電所 見せてもらったで～

山佐ダムに水力発電所が今月末の完成を目指し建設中です。それに先立ち、8月7日に事業主体の島根県企業局による見学会が開催されました。交流センターで参加者を募集し、27名の方に参加いただきました。

建設場所はダム堰堤の真下付近、普段来ることができない場所なので皆さん興奮気味。企業局の方から、年間発電量は約130万Kwhで一般家庭約400世帯分の発電ができること。職員が常駐するわけではなく、約20Km離れた安来市今津町の企業局東部事務所で制御することなどの説明を受けました。説明を聞いた後、「ダムから発電所までの送水管の口径はどれ位あるのか？」（650mmだそうです）、「クリーンエネルギーなので、他の場所でも建設を進めてもらいたい。」などの質問や意見が出ていました。



昭和55年に、洪水調整と飲料水確保を目的に建設された山佐ダム、新たに「発電」という機能も加わります。9月2日から運転が開始される予定だと聞きました。

「他に誇れる地域の誇り」として、みんなで暖かく見守り、そして応援していきたいものです。

秋の恒例行事 文化祭も中止に

先般各自治会から選出いただいた実行委員の皆さんで話し合っていた結果、今年の文化祭は新型コロナウイルス感染予防の観点から中止することになりました。

しかし、まだ未定ではありますが地域の皆さんの作品を、何らかの形で展示するような催しを開催できないかを検討中です。絵画や書道、陶芸などを趣味にいらっしゃる方、ぜひ展示していただきたいと思います。詳しくは来月以降にお知らせいたします。



シリーズ「昔の写真から」～上山佐児童館竣工式～

今月から不定期で「昔の写真から」をシリーズ化して掲載します。第一回は「上山佐児童館竣工式」。

上山佐での幼児教育は昭和31年9月26日に広瀬町立上山佐幼稚園が山佐中学校の一教室で開園。昭和38年に上山佐小学校の一室に場所が移転されました。

そして昭和44年2月27日に上山佐児童館の竣工式が行われ、その年の4月から幼稚園に替わって児童福祉施設としての上山佐児童館がスタートしました。更に平成16年4月には旧奥田原保育所と統合し、平成27年度まで「山佐児童館」として運営されてきました。しかし入園希望者の減少により、3年間の休園を経て平成30年度末をもって閉館されました。



掲載した写真では人物の顔が確認できませんが、懐かしい方や今もお元気な方の若い頃の姿を拝見することができます。交流センターにお出かけいただき、実際の写真でご確認ください。

また、以前の交流センターだよりでもお知らせしましたが、地域としてもこの建物の他目的利用を模索する必要があると感じています。（写真は以前、鴨木基人さんからお借りしたものです）

交流センターの巨大アサガオ見に来てね～！

交流センターに植えたアサガオ、どういう訳か恐ろしいほど大きく成長しています。背の高さは屋根まで届き、葉っぱの大きさは手のひら二つ分くらいあるでしょうか。



現在毎朝少しずつ花を付けていますが、この交流センターだよりを手にする頃には、たくさんの花が咲くのではないかと考えています。巨大アサガオを見に、ぜひ交流センターにおいでください。



9月	地域行事・交流センター行事などの予定
1火	
2水	がん検診、てんばこどもクラブ
3木	健康体操、カラオケサークル、てんばこどもクラブ
4金	てんばこどもクラブ
5土	
6日	
7月	健康体操
8火	
9水	ニコニコサロン、てんばこどもクラブ
10木	健康体操、てんばこどもクラブ
11金	てんばこどもクラブ 交流センター運営協議会
12土	
13日	
14月	健康体操
15火	
16水	クロリティ・スカットボール、てんばこどもクラブ
17木	健康体操、カラオケサークル、てんばこどもクラブ
18金	てんばこどもクラブ
19土	
20日	
21月	
22火	
23水	てんばこどもクラブ
24木	健康体操
25金	てんばこどもクラブ
26土	
27日	
28月	健康体操
29火	
30水	てんばこどもクラブ

（予定は変更になることもあります）

【編集後記】

水力発電所見学のため、約40年ぶりに旧道を通りダム堰堤のすぐ下まで行くことができました。ダム工事が始まる前、奥田原の中学生が毎日自転車通学していた道です。「この先に通原集落があったんだ。」などと思いながら、ダムを見上げたところです。

当時の通原の地形などは既に記憶のかたですが、そこに人々の暮らしがあったのは事実ですし、家や田畑、そしてお墓などが沈んでいて、この水力発電所も、そうした経緯のうえに建設される施設であると考えれば、非常に感慨深いものがありました。